

公益社団法人日本動物学会北海道支部 2012年第3回役員会議事録

日時：2012年10月23日 13:30～15:00

場所：北海道大学理学部5号館813号室

出席者：高畑雅一、山下正兼、勝義直、小川宏人、山羽悦郎、清水宗敬、春見達郎、松島俊也、柘原宏、黒岩麻里、増田隆一、水波誠、鈴木仁、木村敦、相馬雅代、和多和宏、西野浩史、三浦徹（18名）

欠席者：高久元、松原創、山家秀信、東藤孝（4名）

1) 新しい支部規定の確認について

- ・高橋前委員長と山下理事を中心とした前執行部の尽力によって作成された支部規定（改訂案）が承認された。
- ・今後の支部活動は、この規定に従って行うこととする。資料として配布。

2) 今年度の予算執行について

- ・小川前庶務幹事から、大会時開催の支部幹事会における本部の方針について報告があった。
  - i) 年度末の支部残金が繰り越し可能か否か、まだ明確な方針は出されていない。
  - ii) 支部口座からの引き出しは、1件ごとに分ける必要はなく、手元にプール可能。
  - iii) 不足した場合は本部に請求することが可能である。
- ・和多前会計幹事から、今年度（10月23日まで）の収支資料が配布され、今後の見通しについて説明があった。
  - i) 残高125,431円
  - ii) 講演会回数は年によって変わるが、平均すると4～5回となる。謝金は現在1件1万円である。
- ・これらの報告を参考として、今年度の活動について意見交換し、公益社団法人にかなう支部活動を実践するのが望ましいという結

論となった。

- ・その結果、今年度中に、一般市民も参加可能な講演会またはシンポジウムを開催することとした。
- ・予算は80,000円とする。
- ・近日中に、支部会員全員に上記企画に関する提案を公募し、その中から選ぶこととした。
- ・公募だけでは集まらない可能性もあり、役員会の中で内々に企画を立てておくこととする。
- ・また、この企画は今年度だけに終わらせないよう、その継続に努力するものとする。

### 3) 庶務、会計の引き継ぎについて

- ・新庶務幹事（H24 西野浩史氏、H25 三浦徹氏）と前年度庶務幹事（小川宏人氏、新会計幹事（H24 黒岩麻里氏、H25 相馬雅代氏）と前年度会計幹事（和多和宏氏）との間で、それぞれ引き継ぎを行って頂くようお願いした。

### 4) 今後の支部活動、役員会、来年度の支部大会などについて

- ・新年度が1月からではなく、7月から始まることになった体制に対応するため、支部活動の変更を検討した。その結果、
  - i) 支部大会はこれまでどおり8月下旬を目安として開催することとする。
  - ii) その時に開催する役員会で、新年度の予算、活動について検討し、総会で確定する。
  - iii) 支部役員の任期は会計年度に合わせて7月を開始、6月を終了とする。
  - iv) 役員会は支部大会時に開催するのみとし、必要に応じて開催することとする。
  - v) 来年度の支部大会は、8月24日（土）北海道教育大学札幌校で開催する。
  - vi) 再来年度の支部大会は、西部地区での開催を同時期に予定している。山羽先生、清水先生に西部地区での調整をお願いした。

## 5) その他

- 松島理事から9月に行われた理事会の内容について報告があった。
  - i) 国際動物学会議を2016年に日本で開催することになったが、沖縄のOISTで独立して開催するか、九州地区が当番となる日本動物学会と合同で行うか、現時点では未定である。
  - ii) 学会を税控除団体として認定してもらうため、寄付金を募集している。年に1件3,000円以上で100件以上が連続2年必要である。税控除認定後も上記条件の継続が必要である。
  - iii) 学会会計がZoological Science出版のための印刷費で圧迫されているため、同誌への投稿を増やして講読先を確保しない限り、数年で限界にいたる可能性が高い。将来的には冊子をやめ、電子化するか、会費を上げる必要が生じる。
- 北海道支部として寄付金に貢献できるよう、機会のあるごとに会員への周知徹底を松島支部代表委員にお願いした。